



同窓会 だより

第 7 号

尾崎教育振興基金
特集号

昭和60年11月15日

静岡県立磐田南高等学校同窓会

印刷 / 総合印刷 (株) 大進堂

見中・磐南の2つの宝物

学校長 西ヶ谷 晃 志雄

この程「尾崎教育振興基金」が発足し、基金拡大募金が展開されることとなり、本校が名実共に名門校として益々の充実発展が約束されましたことに感激しているところです。

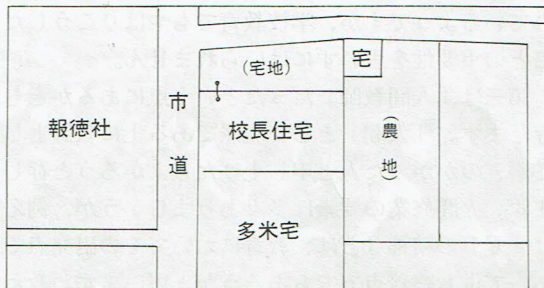
実はこの基金構想の発端は、私は次の呼びかけから生まれたように思えてなりません。

「校長、学校後援会の役割はハード面ではそろそろ終わったと思うが、どうかね。これからはソフト面での援助だね」(伊藤武会長)

私は時代を先取りする卓見と考えます。また会長は、見中——磐南という素晴らしい教育環境の中で英才を育てるのに金を惜しむな、突然の不幸な生徒は激励し、学術・スポーツに成果を上げた生徒・職員を奨励せねば等ことあるたびに言われ、後輩生徒・現教職員を思い遣る心、また尾崎初代校長敬慕の情に私は圧倒されました。

そういう会長の心がやがて後、同・P各役員的心を動かし、このたびの尾崎基金の実現となったと思うのです。

私たちは最近二つの宝物を皆様からいただきました。一つははぐま会館、そして今回の基金です。何ものにも替えがたい大切な宝物として大切に参ります。有難うございます。



母校教育振興基金をめざして

募金推進委員長 石川 博 敏

尾崎教育振興基金の設立に伴い、同窓会として賛助募金をすることになったので推進委員長を私にやれとのこと、その責任の重さを痛感するが、母校の発展のためにお引受けすることに決意いたしました。

申すまでもなく、同窓会は母校の発展とともにあり、その源動力となる教職員の皆様方や生徒諸君に期待する所が大きいのであります。尾崎教育振興基金は、その意味において有意義なものと思います。私ども同窓会もこの募金を単なる賛助募金にとどめず、「同窓会教育振興基金」の設立を目標に意欲的な募金にしたいものだと思います。会員の皆様にもこの趣旨をご理解いただき、是非募金にご協力をいただきたくお願い申し上げます。

今回は、見中卒業生を中心に募金を進めることとなりますが、高校卒の諸君も先輩達の意志を引き継ぎ、母校や後輩のため、この事業を進展させていただきたいとお願いいたします。

終わりに募金推進委員としてご協力くださる委員の方々には大変な仕事と思いますが、ご協力をお願いし、ご挨拶といたします。



尾崎先生頌徳之碑

金基興教育 文部大臣 橋田邦彦

尾崎先生名ハ楠馬 明治十一年高知縣ニ生ル資性謹嚴重厚識見高邁ニシテ人格皎潔職ヲ教育界ニ奉スルコト四十二年一路教育ノ正道ヲ踏ンデ人材ノ育成ニ心魂ヲ傾ク大正十一年二月本校初代校長トシテ赴任スルヤ全國ニ魁ケテ練練ニ努メ夙ニ特異ノ校風ヲ樹立ス而シテ此ノ間正ニ二十年卒業生ヲ出スコト二千ニ及ビ董化透徹徳風四隣ニ洽ク信望一身ニ蒐ル曩ニ文部大臣静岡縣知事静岡縣教育會ヨリ相次イテ旌表ノ榮ニ遇フ洵ニ故無キニ非ザルナリ昨春先生退職ノ報傳ルヤ卒業生父兄等胥謀リ碑ヲ建テテ其ノ徳ヲ頌セントシ題字ヲ橋田文部大臣ニ囑ス其ノ成ルニ及ヒ乃チ刻シテ以テ悠曠ニ傳フト云爾

昭和十八年四月八日

静岡縣立見付中學校長 佐野熊吉

昭和十七年三月 静岡縣立見付中學校退職
昭和二十八年十一月十六日 東大病院入院のため卒業生付添磐田駅出発
昭和二十九年二月五日 逝去 享年七十七歳
昭和二十九年二月二十一日 於南高校講堂同窓会葬
昭和二十九年三月十一日 見付見性寺の墓地に埋葬



尾崎楠馬校長を偲ぶ

見中第1回卒業生 藤沢光次

私はあの偉大なる教育者、尾崎楠馬先生から、今私どもは何を学ぶことができるだろうか — このことをとりあげてみました。

その第一は、教育者としての自らを研鑽努力を以てしたことであります。先生は学校長として学校経営に抜群の腕を振るわれたとともに、国語漢文の教師として、教壇にも活躍せられたのであります。漢詩をよくし、俳句、文章にも堪能でありましたが、就中文章に至っては、余人の遠く及ぶべくもない名文をお書きになりました。なお漢詩については、昭和四年（時に五十二歳）以来、大竹温先生に師事してこれを学ばれ、老千首に垂らんとするすばらしい詩を作られました。今母校の会議室の壁面に、鈴木未央先生の達筆で掲げられている詩があります。題して「磐田南高等学校創立三十周年記念式に当り感有り」という次の詩を御紹介いたします。



(三首の第一であります)

三十年前創始の時 公に奉ずるに意を専らにして
克く私を去る 同心協力惟師弟 芳園を開かんと欲して
棘茨を翦る

その第二は、師弟同行、卒先垂範の教育実践者であられたということでもあります。生徒とともに、校長自らはだしになって、校庭の草むしりに汗を流したお姿は今尚私の記憶に新たなものがあります。また当時は心身錬練のための遠足もよく行なわれましたが、先生はいつもわらじばきで先頭に立って生徒とともに黙々と歩かれました。今でも、家庭教育ではよく「こどもにはおやじの背中を見せよ」と言われているようですが、学校教育でもやはりこうしたことの重要性を思わずにはいられません。

第三は、「人間教師」だったという点にあるかとも存じます。「人間」として立派である上に教師として磨きのかかった人と申し上げたらよかろうと存じます。人間修業の要素は多々ありましようが、例えば「愛」の精神などは、教育においてその出発点であって併も終着点でもあろうかと思えます。教え

児に対する先生の慈愛の心の実に深く且大なるものがあつたと思います。特に戦時中、不幸若くして戦死せられた教え児の公葬には必ず参列せられ、万斛の涙を注いで名文の弔辞を捧げられました。

その第四は、教頭小田原勇先生を三顧の礼をもって、朝鮮の竜山中学校から迎え、尾崎一 小田原の名コンビの下、あの偉大なる教育実践が実を結んだのであります。端的に申し上げますと、尾崎先生もえらかったが、小田原先生も実にえらい人だつたと思います。さきに尾崎先生は新任で土浦中学に着任せられたとき、すでに小田原先生はここに居られたのであります。勿論年令は尾崎先生の方が五つ位上のようなのですが、その土浦中学で肝膽相照らして協力しあつた者二人が、磐田原頭に新しい「労作教育」の大旗を掲げて、再会の感激にひたりながら、画期的な「人間教育」の道場を築きあげられたのであります。

栗山

校内幹事 池谷幸平

「はぐま会館」は、創立60周年の記念事業として建てられた。建設資金は、尾崎校長が労作教育の演習地として開設した栗山を処分してつくられた。

栗山の開墾は、昭和八年頃から職員・生徒の勤作作業で進められ、栗や松の木が植樹された。約6千坪にもおよぶ拡大な山をよくも人力でやったものだと感心する。当時の校友会活動はことに活発で、各部ともよい成績を挙げていたが、中でも水泳は抜群であり、全国でも見中といえは水泳で通る程有名であった。したがって尾崎校長は、今後更に予想される校友会費の増大に対処する方途として、労作教育と校友会活動費の充足を考えた一足二鳥の事業ではなかったかと思われる。



しかし、残念なことに昭和11年からの戦争と戦後の学制改革など社会情勢の変化により、栗山も初期の目的が達成されないままになっていた。ところが栗山という大きな資産は、現在になって「はぐま会館」として蘇り、生徒のクラブ活動や同窓会など各種団体の研修や会議に利用されている。



水泳記念館

校内幹事 池谷幸平

水泳記念館は、ベルリンオリンピックに出場した牧野・寺田・杉浦の3選手の活躍を記念するとともに、続く後輩への期待を込めて建設された。当時、水泳部の先輩たちがこの建設を尾崎校長にお願いに行ったところ、校長は即座に承知してくれたと聞いている。当初は、プールサイド北に建てられ練習効率は抜群で環境もよく、水泳王国のシンボルともなった。

しかし、その後の戦争の拡大で将来の目標も消えて十分な成果をみずに誠に残念であった。この記念館も昭和33年頃には、管理上の理由から玄関前の小高い丘の上に移転された。以後は各クラブの合宿施設として使われ、前にも増して利用されていたが老朽もひどくなった。新しい会館の建設が昭和四十七年の創立50周年記念事業として計画されたが、財源の関係で延期となり、次の60周年に実現し、現在の「はぐま会館」となった。中には、歴史的事実を残すため尾崎記念コーナー・水泳記念コーナーが設けられている。

尾崎教育振興基金の 設立を感謝して

生徒会長 鈴木 栄三

9月2日の2学期の始業式の折、私たちは校長先生から「尾崎教育振興基金」の設立について承りました。初代の校長先生の御遺産によって、私たちの学術文化、スポーツ等の活動を援助して下さるこの基金の設立を大変有り難く思い、在校生を代表して御礼申し上げます。

私たちは、遺憾ながら尾崎校長先生の御名前を存じあげない者もいるかも知れませんが、今回の基金をきっかけに、東門スロープの「尾崎先生頌徳碑」を仰ぎつつ更に勉学とスポーツに励んでいきたいと思えます。

また、日常自分自身や自分のまわりにとらわれて、今を生きるのに精一杯で、先輩方のことにまでは思いは至りませんでした。私ども後輩のために教育振興基金の設立に賛助下さるとのお話もお聞きし、改めてその恩恵に身のひきまされる思いがします。私どもも磐南の伝統を守り、御先輩の方々のご慈愛に報いるよう努力を重ねる覚悟です。



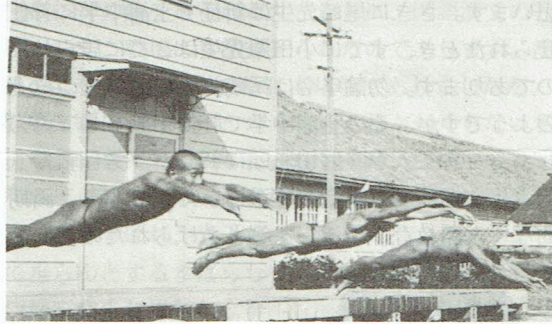
県代表に選ばれて

南高教諭 伊達 芳弘

磐田南高校へ新任として来て一年目から、尾崎教育振興基金より2度にわたって御援助をいただき、誠に感謝しております。成績は残念な結果に終わってしまい、また来年度をめざして精進しているところです。簡単ですが結果を報告させていただくと、八月の群馬での全国教員サッカー大会では1回戦突破のあと、2回戦で今大会優勝の兵庫県に、延長の末4対3で破れ涙をのみました。また10月の第40回国民体育大会サッカー成人の部では、静岡県選抜チー

ムに選ばれ、準々決勝でこれまた今大会準優勝の茨城県に3対2で延長で破れてしまいました。

前記のように、結果としてはあまり芳しいものではありませんでした。自分としてはこの尾崎教育振興基金が、我々教員や生徒の諸活動の大きな励みになっていく事を期待しながら、自分自身はこの名に恥じぬように、今後も自分の技術・能力を高めていくことを目標にして、今後ますます精進していきたいと思えます。



インターハイに出場

平幸谷 陸上部 山崎 好夫

6月下旬の東海インターハイで、3千メートル障害に4位入賞を果たし、インターハイの切符を手に入れました。梅雨が明けてからの夏場の練習はかなりきつかったのですが、それでも、なんとか乗り切ってインターハイにこぎつけました。出発前、校長先生から尾崎教育振興基金の奨励金を頂き、おかげでインターハイ遠征には大変に助かりました。

金沢では体調を考えて素晴らしい旅館（幸運にも柔道の山下さんを目の当たりにしたのです！僕はただ、あの巨体に圧倒されるばかりでしたが）に泊まり、毎日おいしいものを食べさせて頂きました。

8月4日の予選で敗退したのは、陸上競技部の先輩方はじめ多くの方々に申し訳ないと思えますが、僕にとっては自分の夢を果たし、インターハイに参加できただけでも十分に満足でき、また高校時代の良い思い出にもなるだろうと思えます。今は走ることに費したエネルギーを受験勉強に注ぎ、僕以上の夢を陸上競技部、各部活の後輩たちに託したいと思います。

3年生の川島康明君は、今年8月より1年間レーガン大統領の招待学生として県下高校生の中より唯一人選ばれ、アメリカに留学中。基金より奨励金が給付されました。